

～「学研木津北地区」というのは鹿背山の里山のこと 里山活動を楽しみながら、里山再生に取り組んでいます～

【里山の広葉樹林】

鹿背山の里山林は、新緑・黄葉・落葉と季節毎に変化する風景を楽しむことができます。こうした里山の景観は私たちの感性を育み、地域文化を形作る重要な要素として機能してきました。

また、里山は生活の場として炭焼き・生活道具の材料などの利用と竹の子やワラビなどの食材が育まれた場所でもあります。



4月
竹の子掘



さとやま
GO!

かつての里山は、生産の場として所有者によって維持管理され、望ましい状態で存続することが可能でしたが、現在社会では所有者だけによる生産の場としての里山保全が困難となっています。

まして、都市的開発を前提に取得された木津北地区の土地を保全することは、並大抵ではありません。

それでも、里山の自然への関心が高まる中、鹿背山でも里山管理に参加してくれる人々がいます。

現状の鹿背山の里山は、このような人たちの不断の努力で成り立っています。

しかし、全体で140haもの広大な里山を管理するには、より多くの人の関わりが不可欠です。

これまでさとやま通信では、里山の成り立ちや里山が担ってきた機能、鹿背山の自然についてお知らせしてきましたが、これらの知識だけでは里山保全のための大きな力にはなりません。

そこで、今年度には里山学校を開校して、屋外レクリエーションの一つとして、生き物とのふれあいや飲食の楽しみ、更には米や野菜づくり、柿の収穫体験をとおして鹿背山の里山を実感してもらう取組みをスタートしました。

里山学校や鹿背山の里山で活動する団体が開催するイベントへの参加をとおして、ひとりでも多くの人に里山を好きになって欲しいと思います。



11月
柿狩り



11月
脱穀作業

10月
稲刈り



9月
白菜苗の植付



5月
田植え



7月
キャンプ

